

厚生文教委員会行政視察報告書

柴田 賢治郎

視察日程: 2026年5月20日(水曜日)

視察先: 広島県広島市

視察項目

「広島市安芸市民病院に見る市民病院の建て替えに必要な議論」



1. 視察の目的

新城市における今後の市民病院建て替えに向けた議論の参考とするため、広島市安芸区にて建設途中の「安芸市民病院」建て替え事業を視察し、求められる新しい市民病院の姿とプロセスについて確認・検証を行う。

2. 視察先（広島市）の基本情報

広島市は国営病院の市への移管など歴史的経緯もありつつ、117万人の人口規模と市民福祉の観点から、市内5番目の市民病院である安芸市民病院の建て替えが（新城市のように

単独維持の難しさが議論されることなく）スムーズに推進されました。

項目	概要
人口・面積	人口 約 117 万人（中国・四国地方最大） / 面積 約 906 km ²
行政区	8 区（中・東・南・西・安佐南・安佐北・安芸・佐伯）
地勢・気候	瀬戸内海式気候。太田川河口の三角州を中心に広がり、市域の約 7 割が山林・丘陵地帯。
歴史・観光	毛利輝元による広島城築城が礎。被爆からの復興を経て「国際平和文化都市」へ。原爆ドーム、平和記念公園などを擁し、宮島への観光拠点でもある。
産業・経済	国や大企業の出先機関が集まる「支店経済都市」。自動車産業を中心とする製造業も集積する日本有数のものづくり都市。
交通網	JR、アストラムラインに加え、日本最大規模の路面電車（広島電鉄）が市内を網羅。

3. 安芸市民病院の概要と現状

安芸市民病院は、高齢化率が高い地域において、地域密着型の初期・二次救急医療および在宅医療のバックアップ機能を担う中核病院として位置づけられています。

- **所在地:** 広島市安芸区畑賀（周辺に他の医療機関がない地域）
- **診療圏:** 安芸区および周辺 4 町（海田町、府中町、坂町、熊野町）の約 20 万人
- **診療科:** 内科、外科、小児科、リハビリテーション科など
- **救急対応:** 年間約 500 台の救急車を受け入れ（応需率は約 5 割）

4. 建て替え計画の進捗と財務状況

昭和 40 年代建設の旧建物の老朽化に伴い、同一敷地内での「現地建て替え」として事業が進行しています。

- **スケジュール:**
- 地中障害物の撤去により当初予定（2025 年開院）から遅延。
- **2026 年 11 月:** 新棟完成・診療開始予定。
- **2027 年（令和 9 年）3 月:** 既存棟解体・駐車場整備を含めた全体工事完了予定。
- **事業費・財源:**

- 資材高騰の影響を乗り越え、地中障害物撤去による増額を含め**全体事業費は約78.2億円**。
- 国・県からの補助金はなく、**全額を企業債（借入れ）で充当**。

5. 病床機能の見直しと転換（機能強化）

超高齢社会のニーズと地域医療構想に適合させるため、全体の病床数（140床）を維持しつつ、時代に即した病床機能の大幅な転換を図っています。

病床種別	建て替え前	建て替え後（新棟）	変更のポイント
一般病床	80床（うち緩和ケア20床）	80床	維持
療養病床	60床	0床	過剰と判断しすべて削減
地域包括ケア病床	0床	20床	新設（療養病床から振り分け）
介護医療院	0床	40床	新設（医療と介護を一体提供）
合計	140床	140床	総病床数は維持

6. 運営形態と今後の検討課題

- **現在の運営形態**：「公設民営」（広島市が設置、一般社団法人広島市医師会が指定管理者として運営）
- **医師確保の状況**：広島大学病院の医局との連携により確保。
- **今後の展望**：広島市の他の4つの市立病院を運営する「地方独立行政法人 広島市立病院機構」との一体的な運営も視野に入れ、最適な運営形態の検討が進められている。

7. 所感

今回の視察では、人口規模と財政力のある自治体がいかにスムーズに市民ニーズ（病院の建て替え）に応えられるかを見せつけられる結果となりました。広島市では、建て替えに対する慎重な意見が出ることはなく、事業が力強く推進されていました。この事実は、「新都市は決して大都市と同じ手法はとれない」という現実を私たちに突きつけています。当市において市民病院を将来にわたり維持していくためには、限られた財源の中で何を削り、何を残すのかという「縮みゆく自治体としての最適化」から目を背けることはできません。安芸市民病院で見られた医療と介護の一体化（介護医療院の新設など）を参考にしつつ、新都市の身の丈に合った、かつ市民の命を守るための独自のランドデザインを早急に構築する必要性を強く感じました。